

第1回 伊勢崎市部活動地域移行検討委員会 議事録

期 日 令和5年6月30日（金）10:00～11:30

会 場 伊勢崎市役所 東館5階第1会議室

出席者 武井義夫委員、平林知巳委員、堀田享委員、山田千広委員、狩野浩之委員
小野賢委員、矢島貢委員、結城啓之委員、下山祐樹委員

1 開会

2 委嘱状交付

3 あいさつ （三好教育長）

- ・今、本市において部活動地域移行の問題や課題に挑戦できる、協議ができる最高のメンバーが揃い、大変嬉しく思っている。
- ・部活動地域移行の課題山積の中で、前へ進もうとしているところである。
- ・まず目指すのは大きな将来のビジョン、伊勢崎市のスポーツ環境をどうしていくか、大きな夢、志を見失わず、第一歩をどこから踏み出せばいいのか共に考えていきたい。
- ・土曜日、日曜日の部活動、子供たちが「スポーツ環境に恵まれない」、「チームが組めない」、「やりたい種目がない」、「廃部の危機に追い込まれている」等、そうした子供たちをどうやって救っていくか、どうやってスポーツ環境を提供していくか、まずは子供ファーストで協議していただきたい。
- ・その上で、できる地区や競技から始め、その成果と課題を検証しながら、部活動地域移行を進めていく方法をとりたい。
- ・節目となる中学3年生が部活動を引退し、次の代になる時点で土曜日、日曜日のスポーツ環境を整えていきたい。
- ・まずは第一歩を踏み出したいと考えているので、協議の中で活発なご意見を頂きたい。

4 自己紹介

5 部活動地域移行について （事務局より）

- ・伊勢崎市部活動地域移行についての考え方及び方向性について説明
- ・伊勢崎市部活動地域移行の具体化（モデル地区と競技）の設定について

6 意見交換（各委員より）

- ・バスケットボールと柔道は、地域の受け皿があると考えられるので、地域移行は進むのではないかと考える。
- ・伊勢崎市スポーツ協会では、地域移行に向けて、子供を受け入れられるか、各団体に声をかけている。
- ・柔道人口が少ない。部活動に関わっている子たちは地域の柔道教室に通っている。

中学から始めた子供たちも、週に2・3回程度、夜間ではあるが通っている。

(事務局)

- ・柔道の受け入れについて、境地区の中学校には柔道部がないが、境地区在住の中学生で実際に活動している子はいるか伺いたい。

(各委員より)

- ・境は3校中学があるが、いずれも柔道部がないため、他の中学校に、柔道が続けたいがためにうつる子もいれば、栃木・埼玉などへ出て行ってしまう生徒もいる。
- ・現状はスポーツ大会には出られているが、中体連には出られていない。
- ・43団体ある中で、柔道や剣道などは道場が主体となって活動している。
- ・モデル地区で進めていくときの条件として、資料にあるような内容を提示していくものなのか、今できるところから実施していく中で、結果的にこういう形になったというもので良いのか。資料の内容を網羅した中でモデルチームというものを考えていくのか、進め方の確認をしていただきたい。
- ・中体連の救済措置的な大きな変化として、拠点校部活動が認められるようになった。今やりたい部活動がない子を救済する意味をもっている。在籍校に希望する部がない子を対象としている。
- ・進め方として、既存のものを活用しながら、必要なことをオプションのようにつけていくという形のほうがスムーズではないか。
- ・アウトラインをつけてしまうと進めていく中でいろいろ弊害がでてきてしまったり、足がかりが見えなくなってしまう恐れがある。
- ・中体連としては子供たちを救ってあげたい。
- ・突然、他校の子が自分の子が所属する部活に入ってきた場合の保護者の戸惑いも考えておく必要がある。子供たち同士はうまくいけば良いが、結果的にうまくいかなかったとならないように環境を整えたい。外部指導員をうまく活用し、モデルを作っていく。
- ・大規模校でも人がいないのが現状である。部員数が足りない中学校は、他校と合同で活動しているが、持続可能という観点でみたときに、廃部にするか休部にするか悩むところである。今は試合には出ることができている。小規模校だけの話ではないが、境地区を成功例としてモデルとして見守っていくとよい。
- ・会議のスタート時は拠点校という考えはなかったもので、まずはできるところから、拠点校を活用しながら推進していく。子供たちの活動の場の確保として。拠点校・合同部活動の流れの中で地域と連携して受け皿をつくっていくのはどうか。しばらくはこの制度を段階的に進めていくのはどうか。子供たち目線で考え、学校の部活動の数が減ってくれと学校側の負担も減りありがたいし、県の方角性としても合致する。
- ・教室に行っている生徒が中体連に出たい場合は制度的には参加でき、救われる。

- ・育成団体は減ってきており受け皿としてのスポーツ少年団的なものも数は減ってきている。愛好者の団体だけだと中学生の受け入れは難しいと思われる。
- ・従来の部活動の在り方として、部活動=「大会に出なくてはならない」という考え方が根付いている。今後の部活動の在り方として「大会に出なくても良い」「出たかったら選択すれば良い」「スポーツに親しむ」という感覚で良いのではないか。
- ・ゴールを3年として今の課題を整理していくのが良い。
- ・地域クラブが参入してくることはすごく良いことだと感じる。だが、総体になるとクラブチームが入ることで他県の中学生を集めているチームと対戦することになる場合が生じる。強いので勝ち目がない。地域移行というが他県も絡んでおり、実際、種目によって内規が違うのでいろいろな問題が起きている。
- ・自分のクラブも全県より集まっている。栃木・埼玉もいる。なぜクラブチームが中体連に参加しなければならないのか疑問に思っている。
- ・クラブだけの全国優勝がなく、中体連に参加するということになっている。
- ・クラブの2位を決める大会があって何を指していいかわからない。2位狙いのチームもでてきている現状である。
- ・地域移行も最終的にどこを目指しているのか。中体連の優勝を目指すために競技の場を与えるのか、競技に触れて、楽しさを味わわせるためにするのが目的か、明確にする必要がある。
- ・競技性をなくすのであれば部活動をなくし、授業の1コマとしてクラブのようにし設定し、選べるようにしてしまえば良い。さらに活動したい子は、放課後に月謝を払い、バスケや柔道に通えば良い。
- ・競技性にこだわらなければ、自分が本当に合う競技に出会える良さがある。小・中は選択の時期だと思う。さまざまな部活を体験することで能力が上がる。
- ・指導を続けたい教員は、クラブチームに関わってもOKという体制にすれば良い。
- ・生涯スポーツとして考えていくといろいろな可能性が生まれてくる。
- ・今までは、一つの種目を部活動としてやりきる流れがあった。
- ・これからは多様性を尊重し、今ある現実とすばらしいビジョンの中で、そこに至るまでどうもっていったらいいか考えていくべきである。
- ・最終的なゴールがどこか決まっていないと向かう場所がわからず彷徨ってしまう。部活動にもメリット、デメリットがある。
- ・合同部活動にすることで今まで試合に出ていた子が出られなくなる。いきなり入ってきた子がレギュラーになり、生徒間で不満が出てしまう。
- ・部活動地域移行リーフレットがとても良い。活躍の場を増やし、子供たちがやりたいスポーツを保障してあげたいというメッセージを感じる。

(事務局)

- ・協議の中で境地区が候補として挙がっている。協議の中で、部がない、部員が揃わ

ない等の話題も出てきた。

- ・活動の場の保障をどのようにしていくか考えていきたい。
- ・まずは柔道教室が受け皿として話題に挙がっている。休日、活動の場として一つ挙げられる。
- ・部員数調査を見ると、野球部、ソフトボール部で1、2年生だけになったときチームが成立しない学校がある。
- ・休日だけでも合同や拠点校、活動の場を確保してあげる流れで良いのか伺いたい。
- ・少人数の野球部は、土日だけでも大人数でできれば子供たちにとっては良い。
- ・どの競技で進めていけるか協議いただきたい。

(各委員より)

- ・柔道を境地区で合同にしたら入部する生徒は実際にいるのか伺いたい
→中学で初めて柔道をやりたい子がいるかもしれないが、いないと思われる。
- ・柔道は現実的ではない気がする。場を作ることが大切で、中学までいろいろ体験して高校あたりで自分に合ったものを選んでいくのが望ましい姿であろう。
- ・何をを目指すのかというゴールがブレてしまうと話合いが進んでいかない。
- ・境地区で話がでているので、可能なことをやっていく中で改善したり広げたりしていくのはどうか。今年度は試験的に行い、いずれは市内全部の子供たちを救いたい。夏休み以降、実践していきたいと事務局は考えている。
- ・今のところは地区については境地区、競技については柔道でと考えている。人数が足りない子たちにチームプレイを学ばせたいというところで野球も視野に入れていきたい。居場所を作ってあげたい。
- ・柔道は境地区でないとすると、どの地区ならできるか、協力を得られるか伺いたい。
- ・あずまに柔道教室はないが指導者はいる。
- ・今、部員がいるところに入るのは良いが、何もないところに場を作って「おいで。」というのは大変だと思う。
- ・境地区の子も部活動のときだけ、違う中学で活動していいよと言ってあげた方が良い。今ゼロのところに新しく作るのは大変だ。
- ・柔道協会ではそういう状況になれば考えますと言われているが、どのような形で運営していくかは考えないとならない。
- ・どのレベルで地域移行にするのか、楽しくやっている中でうまい子に声かけて向上を目指すよう促せば一番いい方法だと思う。どこがどのように携わるかは学校や教育委員会がこうしたいという要望があると良い。基本的な考えがほしい。
- ・スタートの段階をどう設定していくか。
- ・体操のようなクラブ主体のところから始めるのはどうか。
- ・水泳部などクラブが主だったところから始めていく方がやりやすいのではないか。

- ・伊勢崎市の体操は協会が主であり、誰でも良いという参加型の体操教室である。他の競技と一緒に、場所はどこでもできるものではないので、まずは施設の確保が重要である。
- ・水泳部・体操部から始めるのがやりやすいのではないかな。
- ・駅伝部は秋だけ学校間の垣根を超えて出場している。境だけでは無理だったら違う中学と出場できるようにしたらどうか。個人種目なら大丈夫そう。ただ顧問の問題が生じる。
- ・伊勢崎市の中で地域スポーツ団体というのを作ってしまうのはどうか。
- ・境地区をモデルに、こんな感じですよというのがほしい。
- ・切り口を競技にするのか地域にするのか。競技を切り口にするほうがこれから考えるべきことがたくさん出てくるのだろうと感じた。
- ・まず、地域という大きな枠の中で子供たちの活動の場について、地域の実情に応じて考えていけると良い。
- ・競技を切り口にすると、親和性の低いところ同士だとさまざまな問題が生じる可能性がある。
- ・境地区であれば社会的ニーズも考えた上で、いろいろ検討してほしい。
- ・地域クラブ活動として、調査の上、部活動指導員の活用をしていけば良い。
- ・まず、地域を切り口にしていく。
- ・境地区で実現していきたい。どこにニーズがあるか各学校に聴き取りを行い、実態を把握し、次の検討委員会で具体的に話を出したいと考えている。
- ・県が部活動地域移行の連携に向けた推進計画を発表する予定である。
- ・まずはやってみないとわからないので、境地区からスタートしてもらうのが良い。
- ・今後も合同部活動は進んで取り入れていくつもりである。
- ・拠点校ではうまくすみ分けしていかないといけない。
- ・境地区のモデルを見ながらうまくすみ分けができてくると良いと感じた。

(事務局)

- ・実施した結果、出てくる問題点を一つ一つ改善しながら、子供たち・地域のために考えていきたいと思うのでお力添えをお願いしたい。
- ・次回の委員会は8月。3年生引退後、夏休み明けの動き出しが良いかと考えている。次回は事務局案を提案するので、その案を基に検討をお願いしたい。実務・運営の面では多々考えなければならないのでそのあたりもまとめて提案していきたい。

7 諸連絡

- ・第2回検討委員会の開催について

8 閉会